



2022年2月21日

## メキシコ経済失速の原因

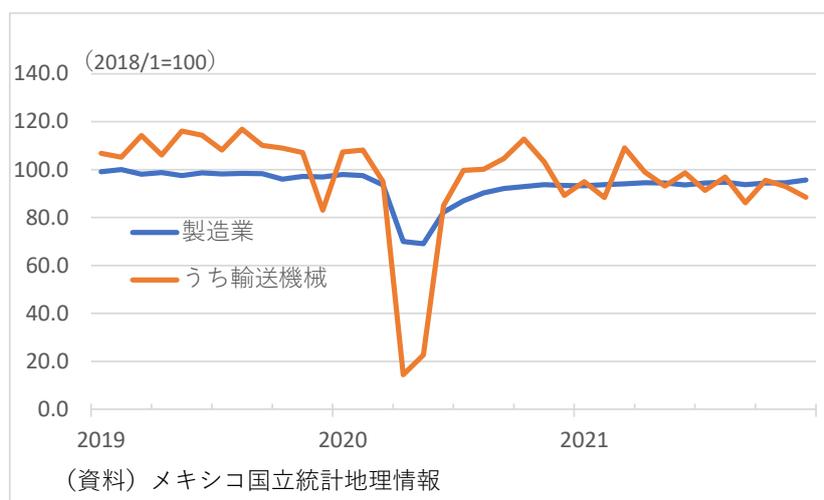
公益財団法人 国際通貨研究所  
経済調査部上席研究員 森川 央

### 2021年下期に急減速したメキシコ、原因は自動車生産の不振

メキシコの2021年10-12月期実質GDP成長率<sup>1</sup>は前期比▲0.1%（季節調整後）となった。7-9月期の成長率が同▲0.4%となっていたので、2期連続のマイナス成長となった可能性がある。速報値段階で改定されることがあるのでマイナス成長が確定したわけではないが、メキシコ経済が下期に急減速したことは間違いない。2020年にコロナ禍で大きく減少した反動があるので2021年の成長率は前年比5.2%になった見込みであるが、2020年10-12月から1年間の成長率は1.7%程度にとどまっている。

下期に急減速した原因として、短期的には自動車生産の不振が挙げられよう。世界的な半導体不足により、自動車生産は各地で低迷している。下期のメキシコの自動車生産は合計145.4万台で上期の167.3万台から13.1%減少していた。

図1 メキシコの製造業生産指数



<sup>1</sup> 対象四半期の1ヶ月後に発表される暫定値。Timely Estimate と呼ばれている。

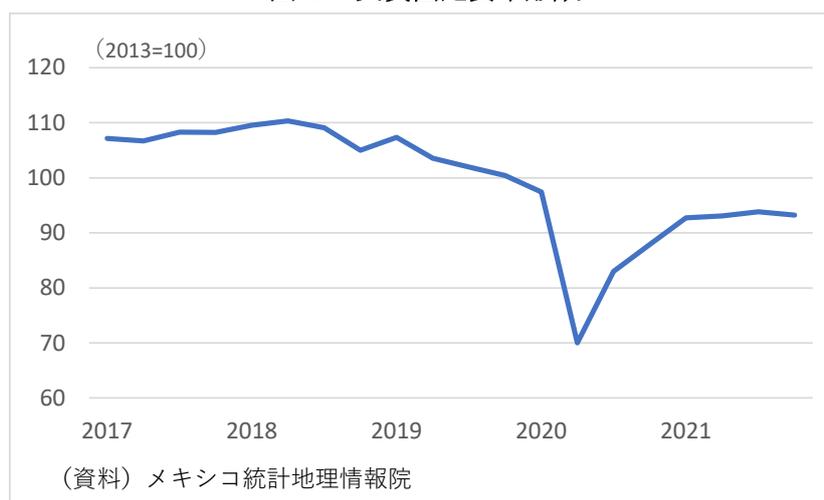
メキシコの生産指数をみると、製造業全体で下期は上期から 0.8%増加しているのに対し、輸送機械は同時期▲5.5%となっている。輸送機械が全体の足を引っ張っていたことがわかる。

半導体不足の原因は新型コロナのまん延による稼働率の低下、サプライチェーンの混乱である。新型コロナを克服できれば正常化すると期待できるが、次々と変異株が現れており武漢株をベースに開発されたワクチンはそろそろ限界という説もある。変異はランダムに起こっており、弱毒化する場合もあれば強毒化する恐れもあるという。生産停滞を一過性とみなすことは時期尚早だろう。

### 長期的な懸念も露わに

更に、長期的な懸念材料も出てきている。固定資本形成（設備投資）の回復が鈍いことである。2020 年の急落のあと多少回復が見られたが、コロナ前の水準に届いていない。それどころか、2018 年をピークに固定資本形成は長期的な下落傾向に入っているように見える。設備投資の長期低迷は、潜在成長率の低下を引き起こしかねない。今後、注視していく必要がある。

図 2 実質固定資本形成



以上

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいませよう、宜しくお願い申し上げます。当資料は信頼できるとされる情報に基づいて作成されていますが、その正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記してください。

Copyright 2022 Institute for International Monetary Affairs (公益財団法人 国際通貨研究所)

All rights reserved. Except for brief quotations embodied in articles and reviews, no part of this publication may be reproduced in any form or by any means, including photocopy, without permission from the Institute for International Monetary Affairs.

Address: Nihon Life Nihonbashi Bldg., 8F 2-13-12, Nihonbashi, Chuo-ku, Tokyo 103-0027, Japan

Telephone: 81-3-3510-0882

〒103-0027 東京都中央区日本橋 2-13-12 日本生命日本橋ビル 8 階

電話 : 03-3510-0882 (代)

e-mail: [admin@iima.or.jp](mailto:admin@iima.or.jp)

URL: <https://www.iima.or.jp>